表18　社宅建築年　別子銅山記念館所蔵資料より作成

明　治　年	集　　落　　名
31	北浦・中巽
32	吉備浦
32・33	日暮最下段２列
36	美の浦
37	西巽
37～41	美の上
38	糯ヶ鼻・吉備峠・明見谷
38～41	美の端
39～40	東巽・糯ヶ岡
40	糯ヶ岡頂上
40～41	頂上
40～42	西日暮

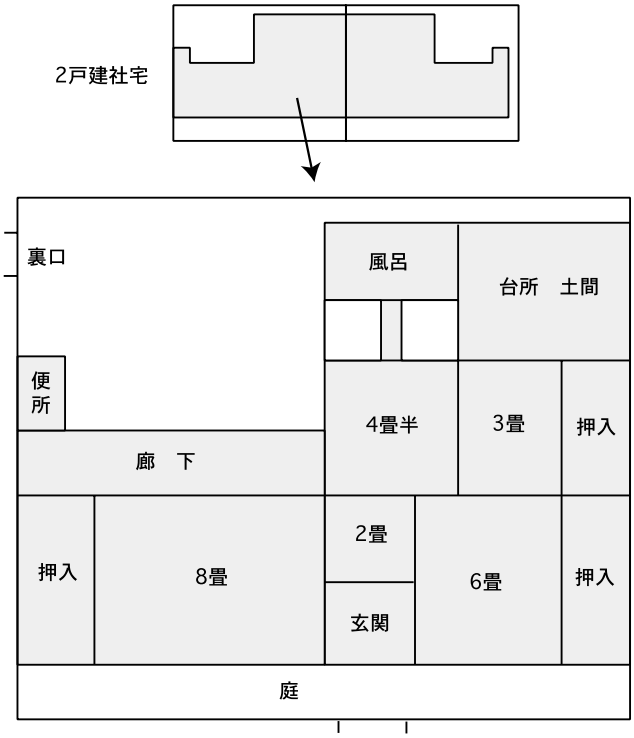


図36　職員住宅平面図　宮本直俊氏からの聞き取り調査により作成

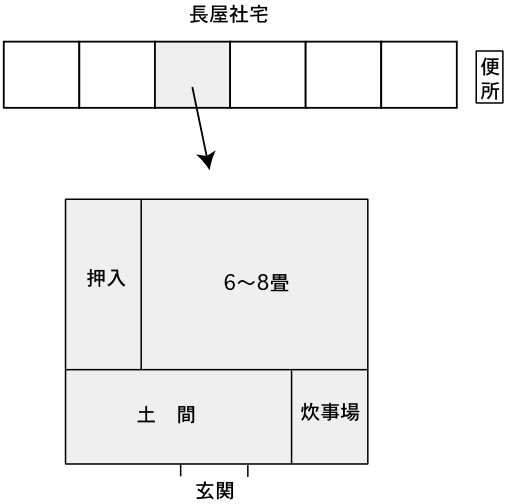


図37　従業員住宅平面図　後藤美廣氏からの聞き取り調査により作成

写真140　中和寮（昭和25年）　田中昌一氏提供

写真141　中和寮

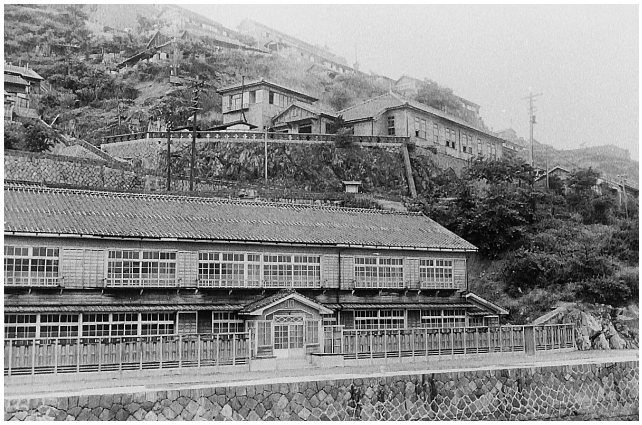


写真142　養成寮（昭和25年頃）　別子銅山記念館提供

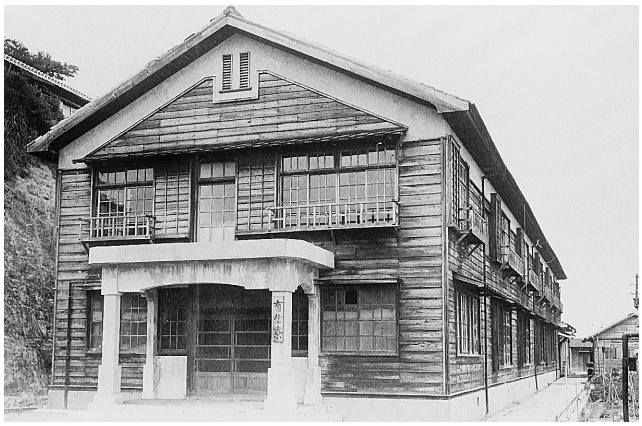
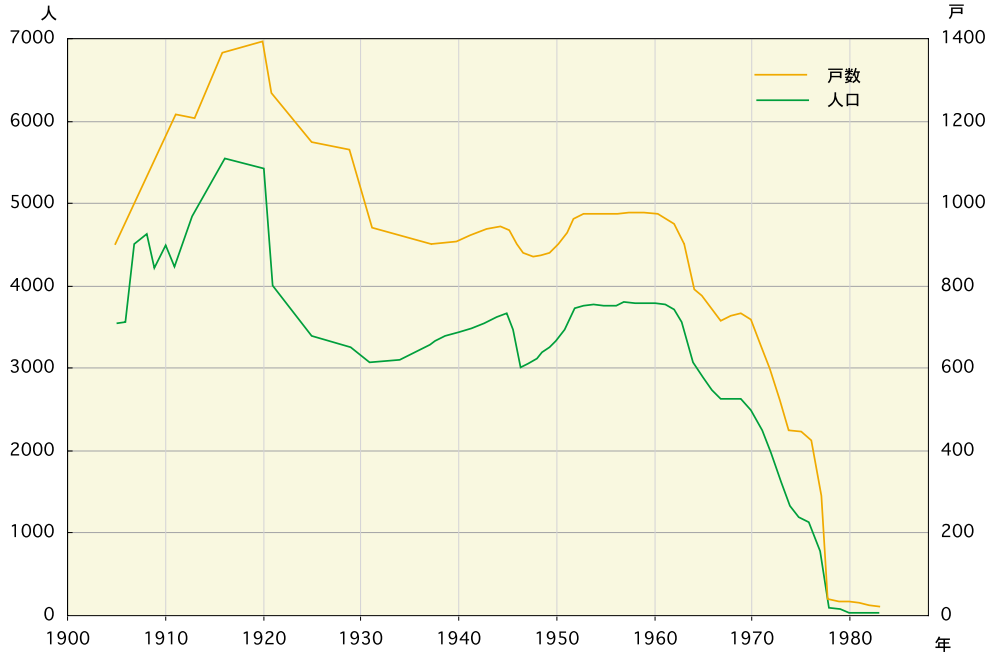


写真143　有信寮（昭和25年頃）　別子銅山記念館提供



・明治38年は，宮窪町役場所蔵データより作成
・明治39年から明治43年の人口は，田中昌一氏所蔵データより作成　戸数は，明治38－44を結んだもの
・明治44，大正2，5，9，10，14，昭和4，6，9，12年の人口及び戸数は，山崎善啓氏所蔵データより作成
・明治45年から昭和12年のうち，上記を除いた年は予測
・昭和13年から昭和23年は，四阪学校生徒数推移を参考に予測
・昭和24年から昭和37年の人口は，愛媛県史地誌Ⅱ（東予西部）ｐ698より作成　戸数は予測
・昭和38年以降（41年除く）は，宮窪町役場所蔵データ及び田中昌一氏所蔵データより作成
・昭和41年は予測

図38　四阪島の人口及び戸数推移

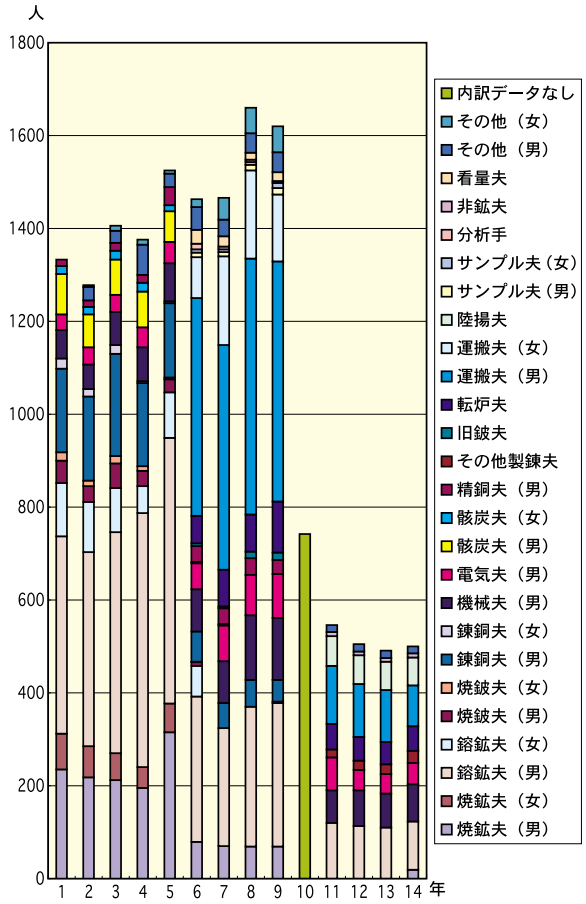


図39　四阪島における労功者数の推移及び内訳（大正期）
別子銅山記念館所蔵データより作成

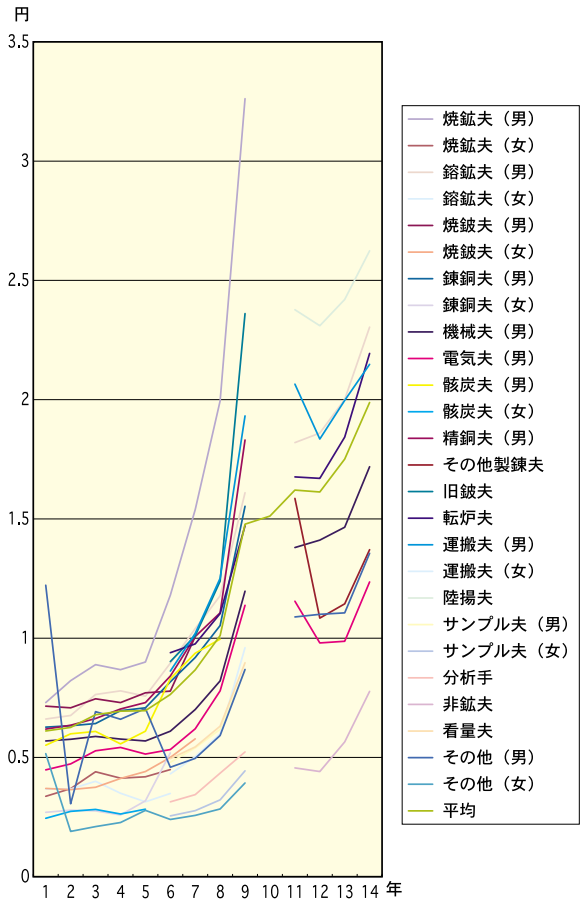


図40　四阪島における労功者別賃金推移（大正期）
別子銅山記念館所蔵データより作成

表19　賃金比較（大正７年）

愛媛県統計書データより作成

職　　業	日　給(円)
四阪島労働者	0.86
養蚕（男）	1.48
養蚕（女）	0.84
鉱夫	1.16
大工職	1.88
鍛冶職	2.73
石工職	2.40
印刷職工	1.35
酒造稼人	1.30

公民館・保育園

図30－23地点に，公民館・保育園が残っている（写真144・145）．ここには，美の上倶楽部もあった．宮窪町立保育園は，昭和26年４月に開設された（写真146）．昼間は保育園として使用され，夜は剣道場になるなど，併用されることもあった[178]．保育園の閉園は，小・中学校と同じ昭和52年３月である[179]．この町立保育園ができる以前については，大正元年９月，婦人労働者のための小児預所が開設された記録があり，これが保育園の始まりと考えられる．大正元年から９年までは，図39のとおり四阪島で働く女性の従業員数も多く，合計すると200人前後存在した．子ども連れで現場へ行くと危険なため，大正元年から10年まで，昼夜を問わず小児預所が子どもを預かっており，その預所は，家ノ島の分析室の北側に存在した[180]．大正10年で閉所したのは，四阪製錬所大改革のリストラにより，女性の従業員がほとんどいなくなったためである．

写真144　公民館・保育園

写真145　公民館保育園（昭和末期）　伏見愛夫氏提供（故山路住穂氏撮影）

写真146　保育園の様子　宮本直俊氏提供

小学校・中学校

図30－24地点に小学校，図30－25地点に中学校が残っている．現在，小学校は，元理科室の屋根が一部崩れてはいるものの，ほとんど明治41年に建設された当時のまま残っている（写真147・148・149）．小学校の校舎は，上から見ると珍しいコの字型になっている（写真150）．昭和22年に設立された中学校は，門ははっきりとわかるものの，敷地内は草木がおおい茂っているため，校舎の全景ははっきりとは確認できない（写真151）．学校は，明治時代から増築を繰り返し，昭和52年には，図41のような配置になっていた（写真152）．現在，学校には私立の時代に購入した標本や机，イス，昭和12年に寄贈された二宮金次郎の銅像などが残っている（写真153・154）．

この小学校が完成する前は，明治時代に明神島に学校が建設されていた．しかし，計画変更となり，結局その学校はほとんど使われることなく撤去されたが，現在も学校跡に基礎が残っている[181]．この美濃島の小学校が開設されたのは，明治34年２月29日（写真155）．明治時代には，４学年以上の生徒で明神島に兎狩りに行き，80頭を捕まえる等のエピソードもある[182]．その明神島の小中学生も，ここの学校へ毎日船で通っていた[183]．四阪で働く社員数の増減は，生徒数の増減にも影響している（図42）．生徒数が最も多いのは，大正９年の1,012人であるが，その後大正12年までのわずか３年間で，生徒数が400人も減少している．これは，この年に製錬所操業改革が行われ，約1,000人の従業員が解雇されたためである[184]．

四阪島の学校名の変遷は，表20のとおり．昭和21年以

降戦後しばらくは，アメリカの影響により「井華四阪島国民学校」と改称させられ，財閥名「住友」が使用できない時期もあった[185]が，記録としては残されていない．

四阪の学校は，会社経営だったので教師の給料もよく，昭和30年代は新任でも月18,000円だった[186]．当時，公立学校の教師の給料は8,000円だったので，倍以上であった[187]．中学校の学級数が最も多かったのは，昭和38年，39年で，９学級あった（写真156）．また，昭和30年代後半から次第に生徒数が減少しているのは，ISP や東予工場への社員転出の影響である．昭和30年代後半，銅のコストが１トン50万円から25万円に暴落し，会社の建て直しのためリストラなどがあった[188]．学校も経営が難しくなったため，昭和36年４月１日，宮窪町へ移管され公立学校となった[189]．四阪島の学校の特徴を，当時の教師は次のように語った．「教師の転勤がないので３月，４月にソワソワ・バタバタすることがなく，終業式までに次年度の計画が出来上がっており，大変落ち着いていた[190]．」「浜に比べると，島の生徒はとても真面目であった印象が強く残っている[191]．」

昭和40年代の小学校は，１学年50人くらいで２クラスに分かれていた[192]．閉校は，昭和52年３月31日であったが，実際に四阪島の小中学生が新居浜に転校した時期は，引越の関係もあって年度途中も多かった．

小・中学校の間にあった講堂は，昭和12年10月６日に増築落成されたものであるが，現在もそのままの姿で残っている（写真157）．

写真147　小学校校舎（南から望む）

写真148　小学校中運動場

写真149　小学校廊下

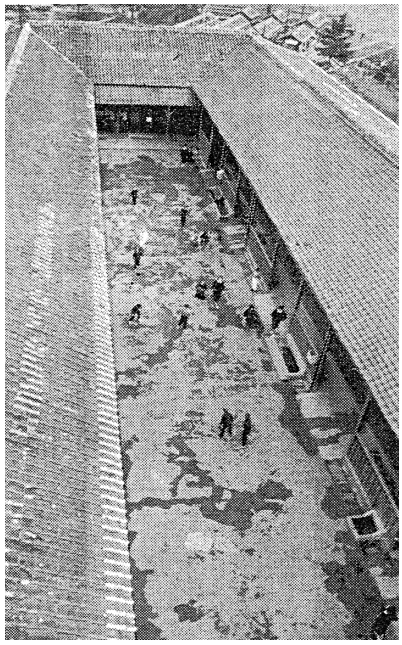


写真150　小学校中運動場（昭和33年）
S57.8.24朝日新聞掲載記事より転載（安藤喜多夫氏撮影）

写真151　中学校正門

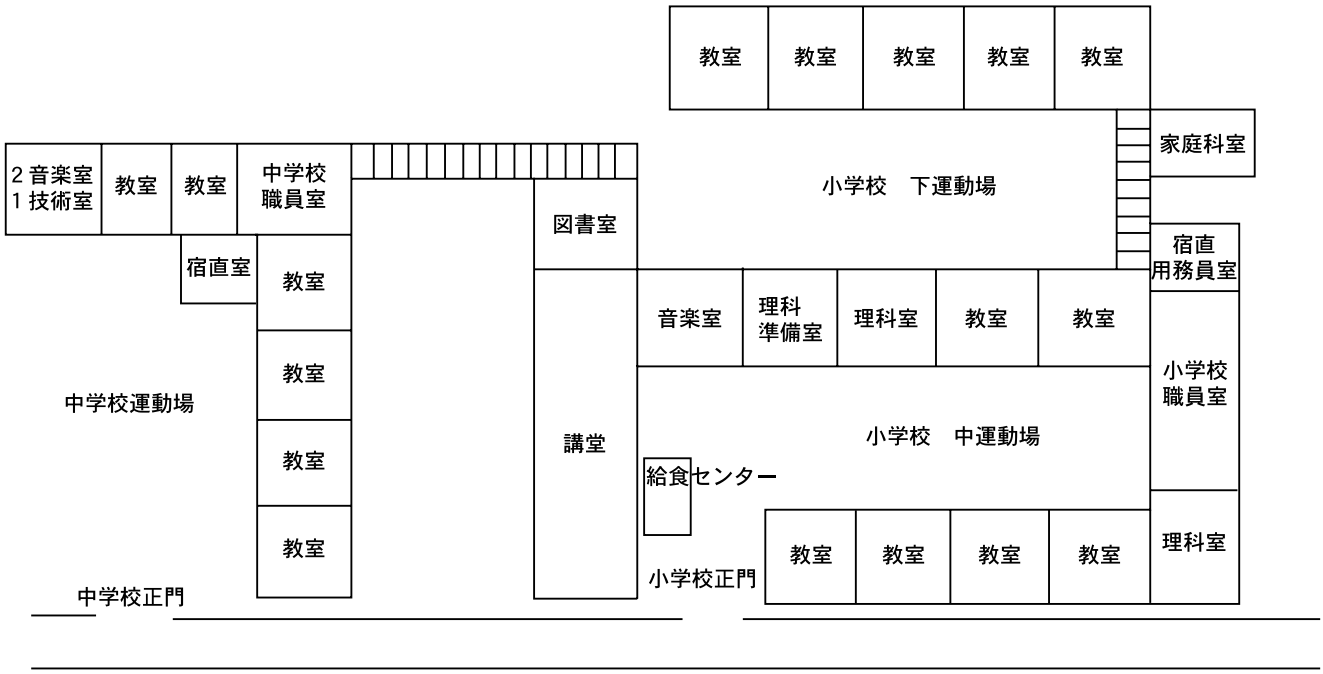


図41　四阪島小・中学校平面図（昭和中期以降）伏見愛夫氏，関谷泰平氏，山中カヨ子氏からの聞き取り調査により作成

写真152　中学校ブロック校舎（昭和32年）「創立五十周年を迎えて」より転載

写真154　二宮金次郎銅像

写真153　小学校教室内

写真155　小学校中運動場入口（明治42年）別子銅山記念館提供

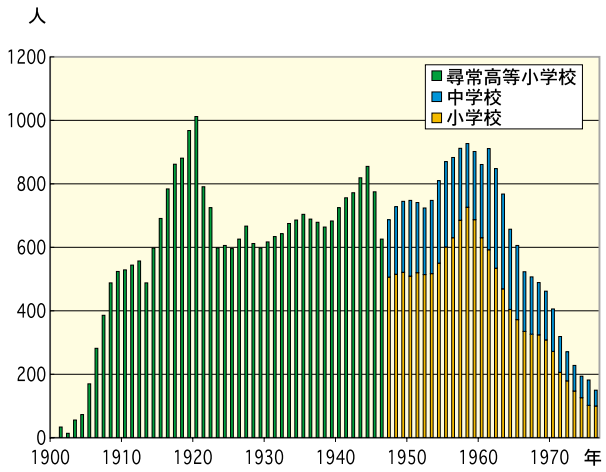


図42　四阪島学校の生徒数推移　佐原光蔵氏所蔵資料より作成

表20　四阪島学校名変遷　佐原光蔵氏所蔵資料より作成

改称年月日	学　　校　　名
明治34年２月29日	四阪島尋常小学校（四年制）開校
36年11月３日	私立住友四阪島尋常高等小学校（四＋二年制）
41年４月１日	私立住友四阪島尋常小学校（六年制）
大正２年１月12日	私立住友四阪島尋常高等小学校（六＋二年生）
10年２月２日	住友四阪島尋常高等小学校
昭和16年４月１日	住友四阪島国民学校
16年12月10日	住友四阪島初等学校
22年４月	別子学園四阪島小学校（六年制）・中学校（三年制）
24年９月１日	財団法人別子学園
36年４月１日	宮窪町立四阪島小学校・中学校
56年３月31日	閉校

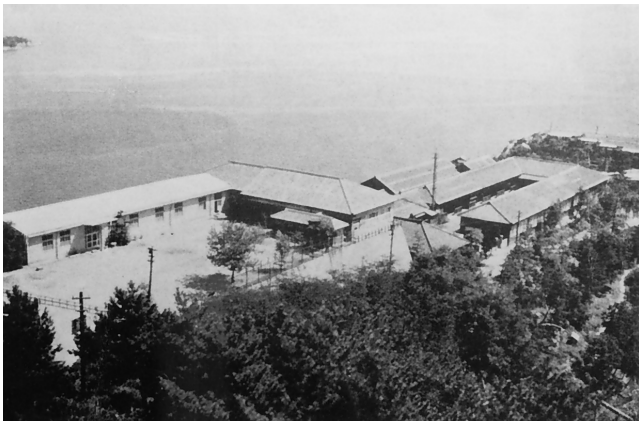


写真156　左：中学校　右：小学校

写真157　講　　堂

給食センター・水族館跡

水族館は，「生徒がいつでも魚を見られるように」と，学校創立50周年記念事業で，小学校の正門を入ったところに建てられた．建設資金は，会社・PTA・同窓会・学校関係者・在島商店等から援助を受け集められた[193]．昭和32年５月20日に開館し，通称「魚の家」と呼ばれ親しまれ，海の魚を飼育していたが，昭和42年には廃止された[194]（写真158・159）．昭和42年12月１日，水族館のあった場所に，給食センターが建てられ，完全給食が開始した[195]．現在残っている建物は，給食センターの建物である．

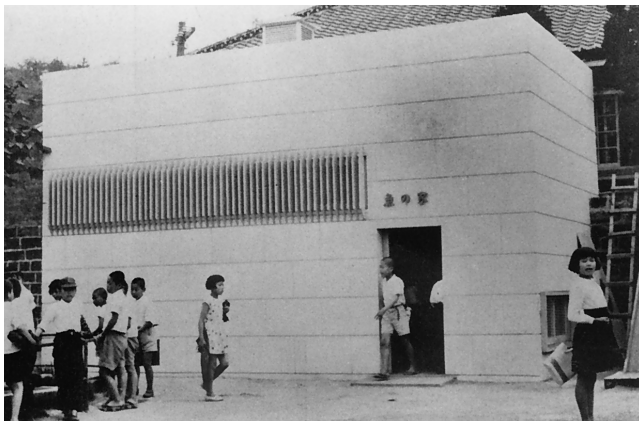


写真158　水族館　別子銅山記念館提供

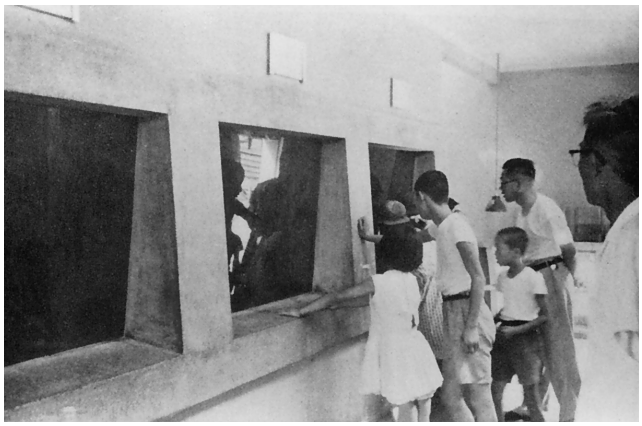


写真159　水族館中の様子　別子銅山記念館提供

グランド

図30－26地点に，グランドが残っている（写真160）．この美の浦海岸の埋立グランドは，大正13年に完成した[196]．それ以前は，この埋立地に社宅が建てられていたが，社宅は大正12年に解体されている[197]．

また，昭和19年春には，古材を組み合わせたような数棟のバラック小屋がここに建てられ，約100人の受刑者が島に来た．粗末な食事に蚕棚のベッド暮らしで，微粉灰のふるい作業，雑務などに従事した[198]．この時は，門を３カ所に設置し，門番を置いて監視していた[199]．

グランドでは，島民大運動会や小・中学校の運動会等

が開かれていた（写真161・162）．中学校の西側の図30－27地点にも小さい運動場があったが，バスケットボールができる程度の広さだった[200]．

グランドで開かれる島民運動会は，７つあった部落を３つに分けて行っていた．とても賑やかなお祭りのようだった．中でも島一周マラソンが最大のイベントで，皆真剣そのものだった．島では，他にすることもなかったからか，陸上競技や球技が盛んに行われていた．[201]

写真160　グランド

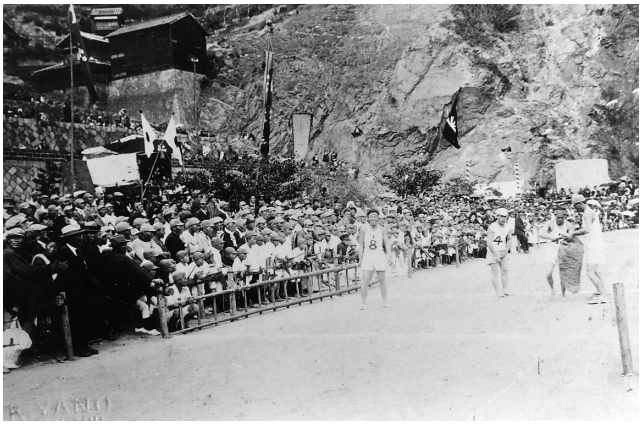


写真161　島民運動会（昭和３年）　田中昌一氏提供

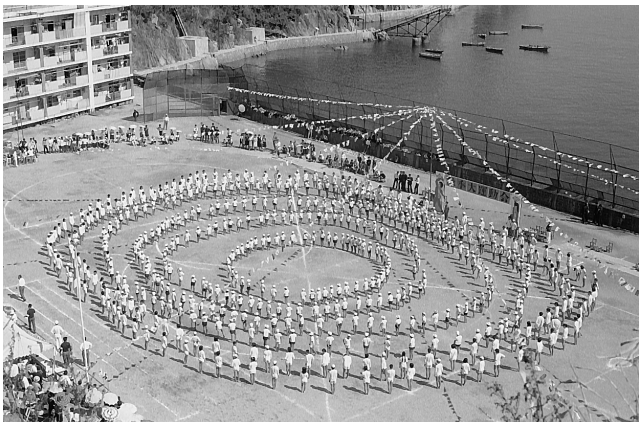


写真162　小学校運動会（昭和42年）　宮本直俊氏提供

プール・測候所跡

図30－28地点に，プールが残っている（写真163）．昭和48年10月，宮窪町が測候所跡に開設したが，わずか３～４年しか使われなかった（写真164）[202]，最初は，「あんな所にプールやか作ってどうするんじゃろ．海へ行ったら世話ないのに．」という声もあったが，その後，防火用水を兼ねているということで，皆納得するようになった[203]．プールが建てられる前は，この場所に明治36年創立の測候所があったが，昭和23年に閉鎖されている（写真165）．

写真163　プール

写真164　プール落成（昭和48年）　別子銅山記念館提供

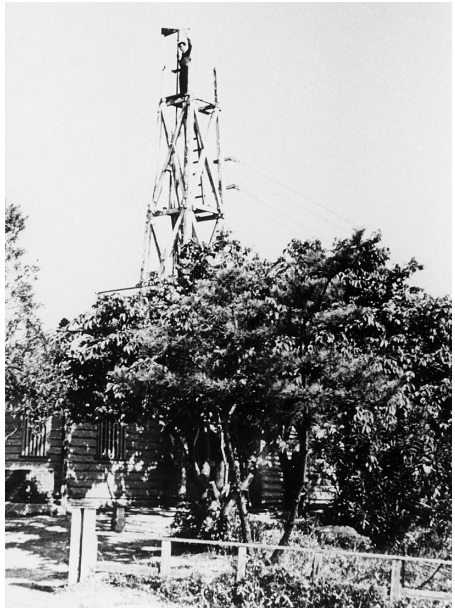


写真165　閉鎖直後の測候所（昭和25年）　田中昌一氏提供

神社

図30－29地点に，大山積神社がある（写真166）．この神社は，別子開坑250年の山神祭典の直前である，昭和16年４月に完成した．現在も，毎年１月と５月に宮司をよんで，お祓いが続けられている[204]．

住友が四阪島を買収する以前は，家の島西南に位置する図14の小島に美保神社があった．製錬所を新居浜から四阪島に移転する際に，美濃島の図30－25地点に神社が移されたが，宮窪村信徒総代が宮窪村本社小野八幡神社に合併を願い出て，明治41年３月24日に本社への遷霊が行われた．よって，同年４月30日大山積神社から分霊を奉戴することとなった（写真167）．確かに，大正時代の写真には，現在の中学校跡地の場所に，神社が写っている．神社がこの中学校横から現在の位置に移されたのは，昭和16年である．別子開坑250年の慶事を記念して，新社殿造営が昭和15年10月に起工，昭和16年４月に完成し，５月の山神祭典は空前の盛事となった．起工から完成までの間は，全島民が敷地造成や，海岸から境内までの設備運搬に勤労奉仕した（写真168）．その後も毎年島で行われていた５月の山神祭では，境内下で相撲大会等も催されていた（写真169）．[205]

現在，この大山積神社の裏には，前述の美保神社の石碑がひっそりと残っていた（写真170）．また，図30－30の本館横には，大山積神社分霊のほこらが残されている（写真171）．まだ，銅製錬が行われていた当時，社員は，安全祈願のため毎朝ここで一礼してから，本館へ出勤していた[206]．「住友が四阪に来る前は，魚が捕れるよ

写真166　大山積神社

写真167　お宮（昭和10年）田中昌一氏提供

写真168　神社敷地造成にあたる島民（昭和15年）田中昌一氏提供

写真169　相撲大会　別子銅山記念館提供

写真170　美保神社石碑

写真171　大山積神社分霊ほこら

うにと，元々はえびす神社が奉られていた．住友が四阪に来た後は，この大山積神社の横に奉られていた[207]」という話も聞くことがあるが，えびす神社の詳細については，明らかにならなかった．

鼠島

四阪島の中で，最も小さい島である．この島は，干潮になると南側に細長い尻尾のような陸があらわれる．その様子は，美濃島から見るとまるで鼠のように見えるため，この名前が付いたのではないかと言われている[208]．製錬所建設当時，病死事故死した親類縁者不明の人々を葬った無縁仏墓地が，島の北側に存在した（図43）．また，大正中期に火葬場と納骨堂が完成し使われていたが，昭和40年に宮窪町営の火葬場が勝浦療養所跡に新設されてからは，鼠島で火葬が行われることはなくなった[209]．四阪島製錬所建設から，100年が経とうとしている現在も，殉職者供養は続けられている．

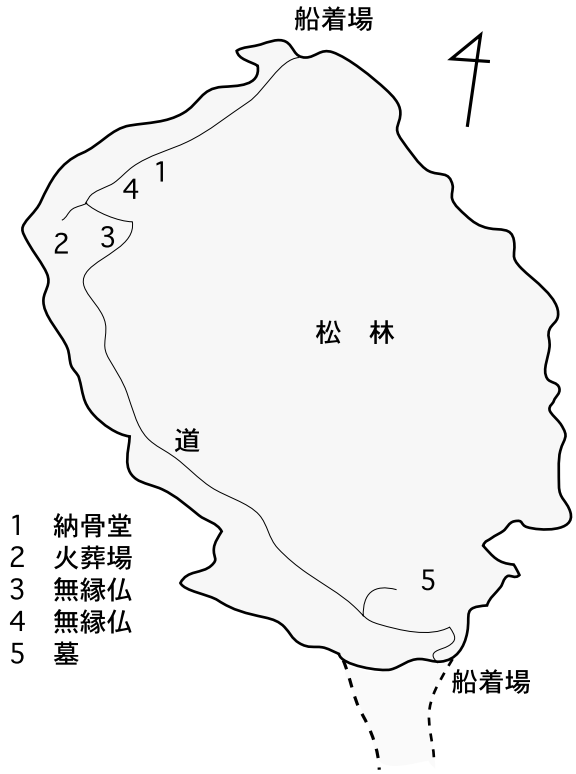


図43　鼠島　別子銅山記念館所蔵資料より作成

梶島

戦前は採石場であったこの島は，昭和20年11月29日，村上紋四郎より島の半分を買収し，住友の所有となった．この頃，食糧事情が極度に悪化したため，社員が交替で島を開墾した．すると，新鮮な野菜類が大量に収穫できたため，明神島と同様に嘱託従業員として農耕従事者５世帯と契約した．昭和21年にその５世帯が島に入居し，昭和27年頃まで芋類，大根，トマト等を供給した（図44）．その後，食料事情の好転と孤島による孤独感から昭和32年には１世帯のみとなり，農耕継続の必要がなくなったため，その１世帯も退島した．昭和32年以降，梶島にある立木，土木用石材を盗みに侵入する者があるため，監視を兼ねた新たな農耕従事者を２名おいたが，昭和49年退島し，遂に無人島となり現在に至る．[210]

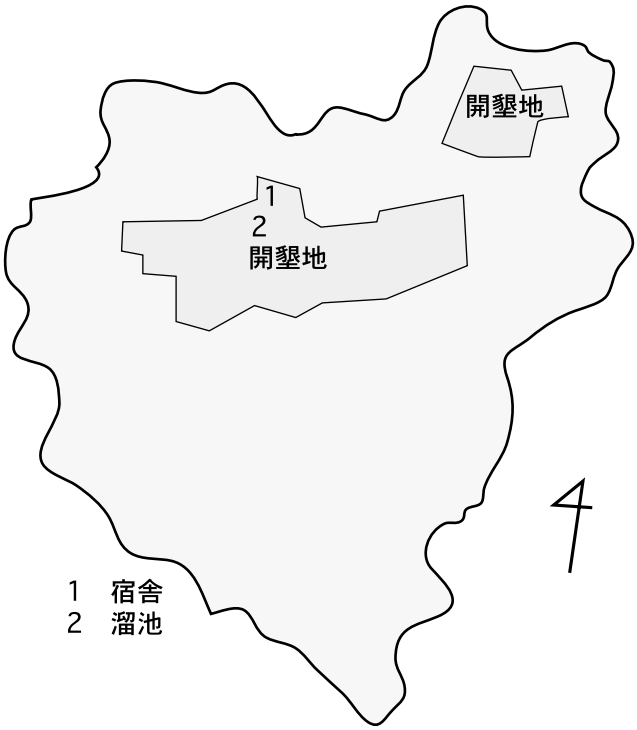


図44　梶島（昭和22年頃）　別子銅山記念館所蔵資料より作成

明神島

この島は，家ノ島・美濃島・鼠島と同じく，明治28年に買収し住友の所有となった．明治末期の２，３年，島は住宅地として使われた．その際に，急きょ建てられた住居や病院，学校等は，ほとんど使用されることなく終わり，製錬開始直後の混乱ぶりが表れている．また，大正末から昭和中期には農地として使用されたが，昭和45年に無人島となり，現在に至る．

明治28年からの島のあゆみを表21にまとめた．住宅地として使用したのは，製錬所を四阪島に移転し操業を開始した直後の明治末期である．当初美濃島での住宅敷地確保が困難となり，明治39年９月，急きょこの明神島を開拓し仮小屋700戸と諸設備の建設工事に着手し，翌40年５月に完成した（図45）．これらの工事にかかった費用は，約６万５千円．この明神島に移住した人々は，小蒸気船高尾丸が曳く艀船に乗って海を渡っていた．明治時代の明神島の図にある四阪神社は，明治42年10月23日に弓削村大字佐島神社に奉られた．美濃島では，明治42年１月にようやく住宅が完成し，この島の仮小屋で住んでいた人々は，美濃島の住宅へと移りはじめ，明治42年末には移転を完了する．[211)]

この明神島には，学校が建設されていた．明神島の分教場の設立認可は，明治41年３月５日であるが，１年後の明治42年３月には，開場に至らず廃止される．そしてさらに１年後の明治43年４月30日，この分教場建物が美濃島に移築され，落成となる．[212)]

大正末期には，農園を設置することとなり，９戸の農家が居住することとなった（図46）．居住した農家は，新居浜よりも周桑出身の人が多かった[213)]．島を開墾し，美濃島に住む人々に，育てた農作物を供給したり，この島の植林や間伐などの手入れを行ったりしていた．昭和11年には海水浴場を開設し，水泳大会などが盛んに行われた（写真172）．そのため，夏休み中は，渡海船が毎日何回も往復していた．昭和12年には，箱崎公園が開設され桜や梅がたくさん咲き，島外からの見物客も多かった．戦中・戦後の食糧難時代は，あらゆるところを開墾し耕作面積も12～13町と増加して限界にきていた．その様子は，島の一部が写っている写真37でもわかる．終戦後，農地改革に対応して小作人が，嘱託従業員として採用される．[214)]

明神島で生まれ育った人は，当時の暮らしを次のように語ってくれた．「明神島から見る家ノ島と美濃島の夜景は格別でした．無数の明かりが海面にも映り，波に揺れてとてもきれいでした（写真173）．不夜城のような家ノ島・美濃島とは対照的に，ここ明神島は電気もなく真っ暗でした．最初はランプを使い，次にガス灯が入りました．夜，勉強する時に明かりがもれないよう，机の四方を囲っていたので，よく鼻の穴が煙で真っ黒になったものです．その後，10w のバッテリーを買ってもらいましたが，すぐ放電していました．そのため，朝，美濃島に着いたら会社まで持っていき，学校が終わるまでに充電してもらい，夕方それを持って明神島へ帰っていました．島では，９戸の農家が農作物を作っていましたが，それは主に野菜でした．大根，人参，ゴボウ，芋，ナス，スイカ等，季節のものはたいてい揃っていました．他にも，果物や麦，粟，キビ等も作っていました．戦時中は，増産のため公園までも畑にしていました．毎朝，大人が手こぎの船をこいで，美濃島まで野菜を売りに行きます．その船に私たち子どもも乗って，美濃島の学校へ通っていました．波のあまりない日は30分くらいで着きますが，船に乗っている間も勉強です．波の高い日は45分くらいかかり，カバンも服も皆びしょぬれになっていました．台風が来たら船が出せないので，３日くらい学校を休むこともありましたが，勉強が遅れるのが嫌で，父に船を出してと言って，よく困らせていました．家に帰ると，水汲みが子どもの仕事です．ため池の水は，お風呂や野菜洗いに使い，井戸の水は，飲み水に使っていました．９戸の農家は２班に分かれていて，お

表21　明神島のあゆみ　別子銅山記念館所蔵資料より作成

年	事　　柄
明治28年	弓削村大字下弓削及佐島村民より島を買収
29年９月	島を開拓し仮小屋700戸と諸設備の建設工事に着手
40年５月	仮小屋及び諸設備完成，移住開始
42年１月	美濃島埋立工事及び住宅建設完成後，大多数が明神島を離島
42年末	全員明神島を離島
	（仮小屋跡で杉山秀吉が野菜を栽培し，美濃島に供給する）
大正12年10月	農園設置により，６戸の農家が入島，居住開始
13年１月	１戸入島
13年４月	１戸入島
14年９月	１戸入島
	（９戸の農家が農作物を栽培し，美濃島に供給する）
昭和11年	海水浴開設
12年頃	鶯谷公園，箱崎公園開設
39年	３戸退島
41年	１戸退島
43年	３戸退島
45年	２戸退島後，無人島となり現在に至る

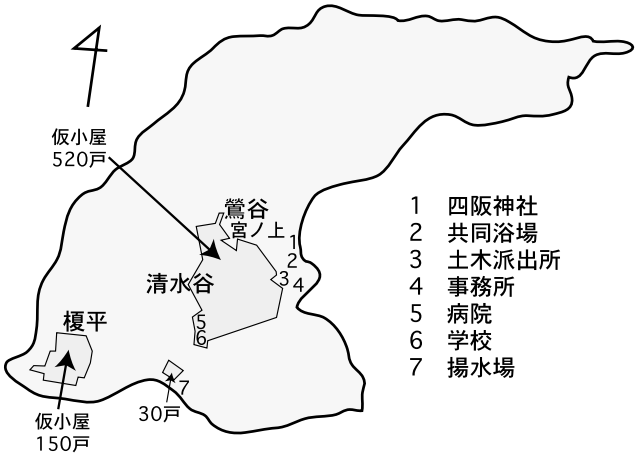


図45　明神島（明治40年５月）　別子銅山記念館所蔵資料より作成

風呂の水汲みは，その班の中で交替でしていました．電気と水には苦労したので，母は今でも洗顔に使う水も，ほんの少ししか使いません．習慣が体に染みついてしまったのでしょう．昭和中期以降，今治や新居浜から野菜を売りに来る人が増え，明神島の野菜が完売しなくなり，島を離れることになりました．（写真174）[215]」

昭和39年１月，明神島の農家も次第に退島をはじめ，昭和45年10月ついに無人島となり，現在に至る[216]．

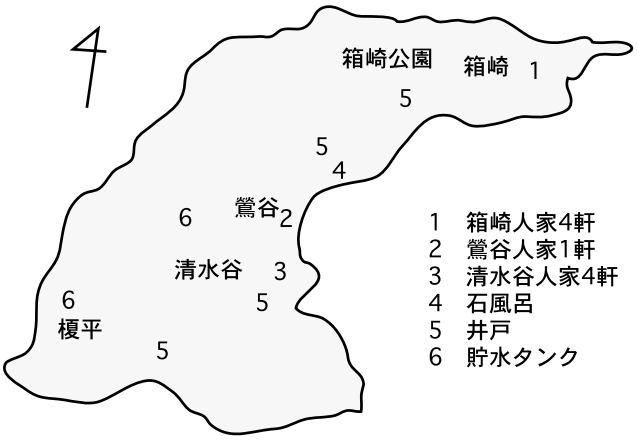


図46　明神島（大正末期）　別子銅山記念館所蔵資料より作成

写真172　明神島での水泳大会（昭和12年頃）　田中昌一氏提供

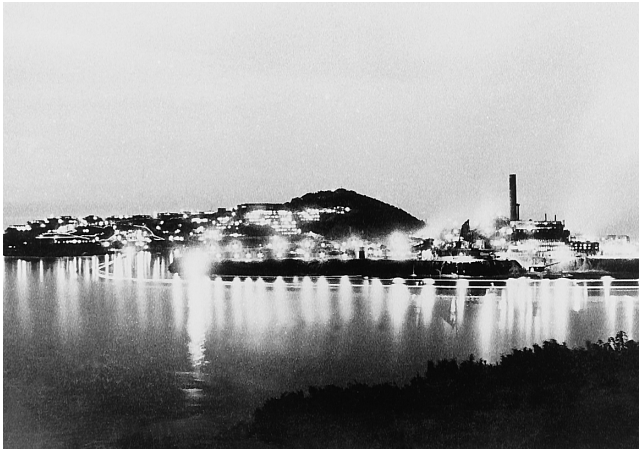


写真173　四阪島夜景　別子銅山記念館提供

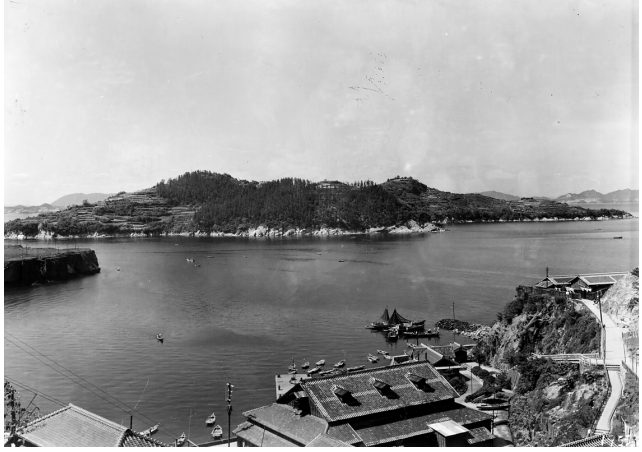


写真174　美濃島から見た明神島（昭和30年）　田中昌一氏提供

お　わ　り　に

私がこの四阪島に初めて来たのは，平成６年である．転炉とカラミ電車をどうやって博物館まで運搬するか，その打ち合わせであった．四阪島へ行く船中，どのくらい眠ったかふと目が覚めると，いきなり目の前に四阪島が現れていた．高くそびえ立つ煙突，目の前に迫る鍛の断崖，緑の木々の間に見え隠れする社宅跡．そのどれもが迫力であった．あれから数年が過ぎ去った現在も，四阪島は変わることなく同じ顔で迎えてくれる．四阪島で行った調査では，32項目において産業遺産の残存を確認した．海を隔てた孤島だったことが幸いし，明治時代のものもいくつか残っている．

産業関連では，明治時代のキューポラやロコジフクレーン，大傾斜軌道，鍛等，そして大正時代の海底ケーブルや大煙突，受鉱庫等が残っていた．その中でも，明治大正期に使われた，住友独特の当吹炉であるキューポラの一部を確認でき，古記録と照合できたことが良かった．これを含めて，四阪島の製錬における錬銅工程の変遷について，当吹から酸性転炉，GF 転炉，PS 転炉へと移行した過程の詳細を，ほぼ明らかにすることができた点が，最も大きな収穫であった．

生活関連では，日暮別邸，病院，旅館，寺，小学校等，明治時代の建物を確認するとともに，多くの方から聞き取りを行うことができ，島の生活状況を知ることができた．他鉱山と同様の長屋社宅で，ほとんど一家族１～２部屋であったこと，島では真水が湧き出ないため潮風呂であったこと等，一見辛い生活のようにも思えるが，その当時の生活を語る人々の表情は明るく，とても懐かしそうであった．そして，聞き取り調査で感じたことは，四阪島に住んでいた人々の絆が深いということである．現在もその人々の交流は盛んであり，「島に住む人全員が，家族のようなものでした．」という言葉が，とても印象的であった．

現在，四阪島はリサイクル工場が稼働しており，従業

員が新居浜からの専用船で通勤しているのみで，一般の人が自由に四阪島へ立ち入ることはできない．この四阪島への社会見学がもし可能になれば，もっと多くの人が産業遺産に触れる機会をもつことができる．また，学校で郷土の歴史や産業技術の発達を学ぼうとするときも，この四阪島への社会見学は大変有効であると思う．ここには，現地で感じとれる迫力がある．行政側も企業に産業遺産の保存メンテナンスを期待するだけでなく，地域をあげて協力していく体制が必要であるということを改めて考えさせられた．

謝　　辞

住友金属鉱山株式会社別子事業所の総務部・四阪工場・東予工場・精銅工場には，調査全般に関して全面的にご協力いただいた．別子銅山記念館には，資料及び写真を提供していただくとともに，関連資料の検証にご協力いただいた．住友共同電力株式会社には，海底ケーブル敷設等の調査にご協力いただいた．宮窪町役場住民生活課には，統計資料を提供していただいた．新居浜市商工観光課には，資料・情報を提供していただいた．住友史料館には，写真資料を提供していただいた．国立国会図書館には，写真資料を提供していただいた．朝日新聞社松山支局には，古記事の掲載についてご許可いただいた．

後藤美廣氏には，四阪島での暮らしや製錬所操業当時の様子についてお話しいただくとともに，度重なる現地調査にご協力いただいた．上垣起一氏及び斎藤哲雄氏には，関連資料の収集・調査にご協力いただいた．高木俊雄氏には，四阪島での暮らしや製錬所操業当時の様子についてお話しいただくとともに，現地調査にご協力いただいた．露口誠一氏には，製錬技術についてご指導いただいた．徳重博昭氏には，転炉やスラグ成分等の調査にご協力いただくとともに，資料を提供していただいた．宮崎博司氏には，海底ケーブル敷設に関する資料を提供していただくとともに，送電に関する聞き取り調査にご協力いただいた．松山明子氏には，故日和佐初太郎氏撮影の写真資料を提供していただいた．末岡照啓氏には，別邸に関する資料についてご教示いただいた．鈴木真弓氏，田中麻子氏，深見真美氏，渡部亜由美氏には，一部聞き取り調査のサポートをしていただいた．宮本直俊氏には，四阪島の暮らしについて，聞き取り調査にご協力いただくとともに，写真を提供していただいた．近藤清氏には，戦時中一緒に働いていた朝鮮人の様子について，聞き取り調査にご協力いただいた．安藤寛和氏には，資料・情報の収集にご協力いただいた．伏見愛夫氏には，四阪島の暮らしについて聞き取り調査にご協力いただくとともに，関連資料及び故山路住穂氏撮影の写真資料を提供していただいた．佐原光蔵氏，関谷泰平氏には，写真及び関連資料を提供していただくとともに，四阪島の学校や当時の暮らしについて，聞き取り調査にご協力いただいた．田尾忠士氏には，関連資料を提供していただくとともに，写真資料収集にご協力いただいた．大田恵茂氏には，写真資料を提供していただいた．曽我幸弘氏には，資料の収集にご協力いただいた．山崎善啓氏には，所蔵データの使用について，ご許可いただいた．田中昌一氏には，四阪島での暮らしや製錬所操業当時の様子について，聞き取り調査にご協力いただくとともに，写真及び関連資料を提供していただいた．山中カヨ子氏には，明神島の暮らしについて，聞き取り調査にご協力いただいた．安藤喜多夫氏には，写真資料の掲載についてご許可いただいた．

以上，ご協力いただいた皆様に心から感謝いたします．

巻末注

1）宮窪町誌 p832
2）地誌取調書
3）別子銅山記念館所蔵資料「四阪島建設計画の変遷」
4）住友金属鉱山㈱別子事業所四阪工場による
5）田中昌一氏による
6）田中昌一氏による
7）高木俊雄氏による
8）朝日新聞掲載記事Ｓ57．８．25
9）日本鉱業誌下巻 p486
10）愛媛県東予煙害史
11）現在の周桑郡丹原町
12）愛媛県東予煙害史 p12
13）歓喜の鉱山 p48
14）住友金属鉱山㈱別子事業所四阪工場による
15）歓喜の鉱山 p50
16）住友別子鉱山史下巻 p20
17）四阪工場による
18）住友別子鉱山史上巻 p488
19）別子銅山記念館所蔵資料「四阪製錬所大正期」
20）別子銅山記念館所蔵資料「四阪製錬所」
21）日本鉱業誌下巻 p495
22）日本鉱業誌下巻 p494
23）別子銅山記念館所蔵資料「四阪製錬所」
24）キューポラ１基と前床２基
25）別子銅山記念館所蔵資料「四阪製錬所建設編」
26）日本鉱業誌下巻 p494
27）住友金属鉱山㈱別子事業所総務部による
28）住友金属鉱山㈱別子事業所四阪工場による
29）20世紀フォトドキュメント p75
30）別子銅山記念館所蔵資料「四阪島実測図 M31」
31）後藤美廣氏による
32）上垣起一氏による
33）田中昌一氏による
34）後藤美廣氏による
35）別子銅山記念館所蔵資料「四阪製錬所明治期」
36）上垣起一氏による
37）後藤美廣氏による
38）別子銅山記念館所蔵資料「四阪製錬所明治期」
39）上垣起一氏による
40）惣開読本
41）佐原光蔵氏による
42）別子銅山記念館所蔵資料「四阪製錬所明治期」

43）別子銅山記念館所蔵資料「四阪製錬所明治期」
44）別子銅山記念館所蔵資料「四阪製錬所大正期」
45）田中昌一氏による
46）朝日新聞掲載記事Ｓ57．８．12
47）住友金属鉱山㈱別子事業所東予工場による
48）高木俊雄氏による
49）徳重博昭氏による
50）高木俊雄氏による
51）宮崎博司氏による
52）住友金属鉱山㈱所蔵資料「四阪島のあゆみ」
53）現在は１本になっている
54）架空線と海底ケーブルの繋ぎ目部分
55）住友共同電力㈱提供資料による
56）別子銅山記念館所蔵資料「四阪製錬所大正期」
57）住友共同電力㈱提供資料による
58）現在の住友電気工業㈱
59）別子銅山記念館所蔵資料「四阪製錬所大正期」
60）別子銅山記念館所蔵資料「四阪製錬所大正期」
61）住友共同電力㈱による
62）宮崎博司氏による
63）山村文化21号 p５
64）宮崎博司氏による
65）住友金属鉱山㈱別子事業所四阪工場による
66）高木俊雄氏による
67）山村文化21号 p５
68）高木俊雄氏による
69）近藤清氏による
70）田中昌一氏による
71）後藤美廣氏，露口誠一氏による
72）日本の鉱山 p272
73）現在の住友金属鉱山㈱精銅工場
74）日本産銅業史 p97
75）日本産銅業史 p99
76）別子銅山記念館所蔵資料「四阪製錬所」
77）日本産銅業史 p285
78）徳重博昭氏による
79）別子銅山記念館所蔵資料「四阪製錬所」
80）日本産銅業史 p284
81）別子銅山記念館所蔵資料「四阪製錬所昭和期」
82）愛媛新聞掲載記事Ｓ18．１．15
83）別子銅山記念館所蔵資料「四阪製錬所昭和期」
84）別子銅山記念館所蔵資料「四阪製錬所昭和期」
85）住友金属鉱山㈱別子事業所総務部による
86）別子銅山記念館所蔵資料「四阪製錬所昭和期」
87）徳重博昭氏による
88）別子銅山記念館所蔵資料「四阪製錬所昭和期」
89）別子銅山記念館所蔵資料「四阪製錬所」
90）徳重博昭氏による
91）住友金属鉱山㈱別子事業所東予工場による
92）朝日新聞掲載記事Ｓ57．８．25
93）住友金属鉱山㈱別子事業所総務部による
94）後藤美廣氏による
95）別子銅山記念館所蔵資料「四阪製錬所雑録」
96）別子銅山記念館所蔵資料「四阪製錬所雑録」
97）宮本直俊氏による
98）宮本直俊氏による
99）住友金属鉱山㈱所蔵資料「四阪島のあゆみ」
100）住友金属鉱山㈱別子事業所四阪工場による
101）田中昌一氏による
102）後藤美廣氏による
103）住友の四阪島と四坂郵便局
104）住友金属鉱山㈱所蔵資料
105）別子銅山記念館所蔵資料「四阪製錬所雑録」
106）朝日新聞掲載記事Ｓ57．８．26
107）田中昌一氏による
108）後藤美廣氏による
109）上垣起一氏による
110）後藤美廣氏による
111）山村文化21号
112）後藤美廣氏による
113）後藤美廣氏による
114）佐原光蔵氏による
115）田中昌一氏による
116）別子銅山記念館所蔵資料「四阪製錬所雑録」
117）別子銅山記念館所蔵資料「四阪製錬所雑録」
118）伏見愛夫氏による
119）後藤美廣氏，高木俊雄氏による
120）産業遺産ガイドマップ
121）住友史料館による
122）続住友回想記
123）別子銅山記念館所蔵資料「四阪製錬所雑録」
124）上垣起一氏による
125）上垣起一氏による
126）後藤美廣氏による
127）別子銅山記念館所蔵資料「四阪製錬所」
128）後藤美廣氏，高木俊雄氏による
129）朝日新聞掲載記事Ｓ57．８．19
130）朝日新聞掲載記事Ｓ57．８．19
131）山村文化21号 p５
132）宮本直俊氏による
133）別子銅山記念館所蔵資料「四阪製錬所雑録」
134）朝日新聞掲載記事Ｓ57．８．20
135）後藤美廣氏による
136）後藤美廣氏，高木俊雄氏による
137）佐原光蔵氏による
138）住友金属鉱山㈱所蔵資料「四阪島のあゆみ」
139）後藤美廣氏による
140）田中昌一氏による
141）山村文化21号
142）歓喜の鉱山 p73
143）関谷泰平氏による
144）佐原光蔵氏による
145）愛媛県史地誌東予西部 p697
146）後藤美廣氏による
147）佐原光蔵氏による
148）朝日新聞掲載記事Ｓ57．８．19
149）高木俊雄氏による
150）山中カヨ子氏による
151）宮本直俊氏による
152）宮本直俊氏による
153）宮本直俊氏による
154）佐原光蔵氏による
155）後藤美廣氏による
156）宮本直俊氏による
157）宮本直俊氏による
158）関谷泰平氏による
159）住友金属鉱山㈱所蔵資料「四阪島のあゆみ」
160）後藤美廣氏による
161）住友金属鉱山㈱所蔵資料「四阪島のあゆみ」
162）別子銅山記念館所蔵資料「四阪製錬所」
163）後藤美廣氏による
164）歓喜の鉱山 p71
165）佐原光蔵氏による
166）佐原光蔵氏による
167）愛媛県史地誌東予西部 p693
168）後藤美廣氏による
169）山村文化第21号 p16
170）歓喜の鉱山 p72
171）関谷泰平氏による
172）住友金属鉱山㈱所蔵資料「四阪島のあゆみ」
173）田中昌一氏による
174）別子銅山記念館所蔵資料「四阪製錬所」
175）宮窪町役場住民生活課所蔵資料
176）別子銅山記念館所蔵資料「四阪製錬所大正期」
177）住友別子鉱山史 p109
178）後藤美廣氏による

179）住友金属鉱山㈱所蔵資料
180）田中昌一氏による
181）山中カヨ子氏による
182）別子銅山記念館所蔵資料「四阪製錬所雑録」
183）伏見愛夫氏による
184）別子銅山記念館所蔵資料「四阪製錬所雑録」
185）佐原光蔵氏による
186）関谷泰平氏による
187）関谷泰平氏による
188）関谷泰平氏による
189）関谷泰平氏による
190）関谷泰平氏による
191）関谷泰平氏による
192）宮本直俊氏による
193）創立五十周年を迎えて別子学園四阪島学校 p13
194）伏見愛夫氏による
195）学校沿革史抄四阪島小学校・中学校
196）別子銅山記念館所蔵資料「四阪製錬所大正期」
197）愛媛県史地誌東予西部 p704
198）朝日新聞掲載記事Ｓ57．８．13
199）田中昌一氏による
200）関谷泰平氏による
201）山村文化21号 p22
202）学校沿革史抄四阪島小学校・中学校
203）山村文化第21号 p22
204）後藤美廣氏による
205）別子銅山記念館所蔵資料「四阪製錬所雑録」
206）後藤美廣氏による
207）佐原光蔵氏による
208）後藤美廣氏による
209）別子銅山記念館所蔵資料「四阪製錬所雑録」
210）別子銅山記念館所蔵資料「四阪製錬所雑録」
211）別子銅山記念館所蔵資料「四阪製錬所雑録」
212）学校沿革史抄四阪島小学校・中学校
213）伏見愛夫氏による
214）別子銅山記念館所蔵資料「四阪製錬所雑録」
215）山中カヨ子氏による
216）別子銅山記念館所蔵資料「四阪製錬所雑録」